

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 3 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2001-522818 (P2001-522818A)  
 【公表日】平成 13 年 11 月 20 日 (2001.11.20)  
 【出願番号】特願 2000-520162 (P2000-520162)  
 【国際特許分類】

**A 6 1 K 47/48 (2006.01)**

**A 6 1 K 45/00 (2006.01)**

**A 6 1 P 37/02 (2006.01)**

【F I】

A 6 1 K 47/48

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 37/02

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 11 月 9 日 (2005.11.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 プラットホームに結合した少なくとも 1 つのエフェクター分子または少なくとも 1 つの細胞特異的に標的化する分子を含む、標的化送達組成物。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の標的化送達組成物であって、ここで前記エフェクター分子は、前記プラットホームに、a) 該プラットホームへの直接的結合；b) 該プラットホームに結合された組込み分子への特異的結合；c) 該プラットホームに結合された組込み分子へのより特異的ではない結合；および d) 相補的結合メンバーの結合、を含む様式で結合されている、組成物。

【請求項 3】 請求項 1 に記載の標的化送達組成物であって、プラットホームに、a) 該プラットホームへの直接的結合；b) 該プラットホームに結合された組込み分子への特異的結合；c) 該プラットホームに結合された組込み分子へのより特異的ではない結合；および d) 相補的結合メンバーの結合、を含む様式で結合された細胞特異的に標的化する分子を含む、組成物。

【請求項 4】 請求項 2 に記載の標的化送達組成物であって、ここで前記エフェクター分子が治療剤および生物学的に活性な因子を含む、組成物。

【請求項 5】 請求項 1 に記載の標的化送達組成物であって、ここで前記細胞特異的に標的化する分子が、インターロイキン - 1 (「IL - 1」)、インターロイキン - 2 (「IL - 2」)、インターロイキン - 3 (「IL - 3」)、インターロイキン - 4 (「IL - 4」)、インターロイキン - 5 (「IL - 5」)、インターロイキン - 6 (「IL - 6」)、インターロイキン - 7 (「IL - 7」)、インターロイキン - 8 (「IL - 8」)、インターロイキン - 10 (「IL - 10」)、インターロイキン - 11 (「IL - 11」)、インターロイキン - 12 (「IL - 12」)、インターロイキン - 13 (「IL - 13」)、インターロイキン - 15 (「IL - 15」)、インターロイキン - 16 (「IL - 16」)、インターロイキン - 17 (「IL - 17」)、インターロイキン - 18 (「IL - 18」)、リポド A、ホスホリパーゼ A<sub>2</sub>、内毒素、ブドウ球菌腸毒素 B および他の毒素、I 型インターフェロン、II 型インターフェロン、腫瘍壊死因子 (「TNF」)、トランスフォーミング増殖因子 - (「TGF - 」)、リンホトキシン、遊走

阻害因子、顆粒球 - マクロファージコロニー刺激因子（「CSF」）、単球 - マクロファージCSF、顆粒球CSF、血管上皮増殖因子（「VEGF」）、アンジオゲニン、トランスフォーミング増殖因子（「TGF」）、熱ショックタンパク質、血液型群の炭水化物部分、Rh因子、線維芽細胞増殖因子、ならびに他の炎症調節タンパク質および免疫調節タンパク質、成長ホルモン、インスリン、グルカゴン、副甲状腺ホルモン、黄体形成ホルモン、卵胞刺激ホルモン、および黄体形成ホルモン放出ホルモンのようなホルモン、細胞表面レセプター、抗体、核酸、ヌクレオチド、DNA、RNA、センス核酸、アンチセンス核酸、ガン細胞特異的抗原；例えば、MART、MAGE、BAGE、およびHSP；変異p53；チロシナーゼ；自己免疫抗原；レセプタータンパク質、グルコース、グリコーゲン、リン脂質、ならびにモノクローナル抗体および/またはポリクローナル抗体、ならびに塩基性線維芽細胞増殖因子を含む、組成物。

【請求項6】 前記プラットホームがコロイド状金属である、請求項1に記載の標的化送達組成物。

【請求項7】 請求項1に記載の標的化送達組成物であって、ここで該組成物が、少なくとも1つのエフェクター分子および少なくとも1つの細胞特異的に標的化する分子を含む、組成物。

【請求項8】 請求項7に記載の標的化組成物であって、ここで前記エフェクター分子または前記細胞特異的に標的化する分子のうちの少なくとも1つが、前記プラットホームに、a) 該プラットホームへの直接的結合；b) 該プラットホームに結合された組込み分子への特異的結合；c) 該プラットホームに結合された組込み分子へのより特異的ではない結合；およびd) 相補的結合メンバーの結合、を含む様式で結合されている、組成物。

【請求項9】 非ヒト動物細胞へのエフェクター分子の標的化された送達のための方法であって、プラットホームに結合した少なくとも1つのエフェクター分子および少なくとも1つの細胞特異的に標的化する分子を含む組成物を投与する工程を包含する、方法。

【請求項10】 前記組成物がさらに組み込みをする分子を含む、請求項9に記載の方法。

【請求項11】 前記分子がインビボで投与される、請求項9に記載の方法。

【請求項12】 前記分子がインビトロで投与される、請求項9に記載の方法。

【請求項13】 細胞へのエフェクター分子の標的化された送達のための組成物であって、プラットホームに結合した少なくとも1つのエフェクター分子および少なくとも1つの細胞特異的に標的化する分子を含む、組成物。

【請求項14】 さらに組み込みをする分子を含む、請求項13に記載の組成物。

【請求項15】 前記分子がインビボで投与されるために処方される、請求項13に記載の組成物。

【請求項16】 前記分子がインビトロで投与されるために処方される、請求項13に記載の組成物。

【請求項17】 細胞へのエフェクター分子の標的化された送達のためのインビトロ方法であって、プラットホームに結合した少なくとも1つのエフェクター分子および少なくとも1つの細胞特異的に標的化する分子を含む組成物を投与する工程を包含する、方法

。